

70年前に 戦争があった

-富士見も戦場だった-

平成 30(2018)年 8 月 初版
令和 5(2023)年 7 月 第 2 版

富士見市立難波田城資料館

目次

はじめに	3
戦前と戦後の70年	3
国民の軍隊	4
ある兵士の記録	6
帰れなかった人々	8
戦争の下の暮らし	10
空襲があった	12
戦争体験を伝える	14

例言

1. 本書は、富士見市立難波田城資料館が開催した平成27年度穀倉展示「70年前に戦争があった」(2015.8～2016.8)の展示図録です。
2. 本書は、上記の展示の解説文および展示資料を元に構成しましたが、展示しなかった資料や解説を大幅に追加しました。また展示資料の一部は本書に掲載していません。
3. 展示の企画・構成および、本書の執筆・編集は、早坂廣人が担当し、駒木敦子、山野健一、田ノ上和宏が補佐しました。
4. 本書に掲載した古文書、古写真、実物資料のほとんどは、市史編さん事業および資料館活動の過程で、市民からご提供いただきました。個々の資料の由来は示しませんが、ご提供いただいた皆様に感謝申し上げます。
5. 解説文の記述にあたっては、多くの戦争体験記録を参考にさせていただきました。貴重な証言をされた皆様、およびそれを残すために努力された皆様に感謝申し上げます。
6. 初版で見落としていた資料や、新たに得た情報を反映し、第2版としました。

はじめに

難波田城資料館は、近・現代の戦争に関わる資料を保管しています。軍服や千人針などの実物資料、役場や学校、個人が残した文書、写真などです。また、戦争の記憶を伝えるための文集も集めています。

毎年のピースフェスティバルや、戦後70年にあたる2015年には穀蔵展示室で、その一部を展示しました。その展示資料・解説文をふくらませて、学校教材としても使えるパンフレットを作成しました。身近な場所に残された“時代の証人”から、戦争の悲惨さと平和の尊さを感じていただければ幸いです。

戦前と戦後の70年

戦前と戦後の70年

	西暦	和暦	できごと
戦前の七十年	1867-68	慶応3-明治1	大政奉還、戊辰戦争
	1877	明治10	西南戦争
	1889	明治22	大日本帝国憲法公布
	1894-95	明治27-28	日清戦争
	1904-05	明治37-38	日露戦争
	1910	明治43	韓国併合
	1914-18	大正3-7	第一次世界大戦
	1918-22	大正7-11	シベリア出兵
1931	昭和6	満州事変	
戦中	1937-45	昭和12-20	日中戦争
	1941-45	昭和16-20	太平洋戦争
戦後の七十年	1946	昭和21	日本国憲法公布
	1951	昭和26	サンフランシスコ講和条約
	1964	昭和39	東京オリンピック
	1970-71	昭和45-46	大阪万国博覧会、連合赤軍事件
	1972	昭和47	沖縄返還、日中国交正常化
	1989	昭和64=平成1	昭和天皇崩御、冷戦の終結
	1995	平成7	阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件
	2011	平成23	東日本大震災
2015	平成27	戦後70周年	

戦後70年の平和と言われる近頃ですが、では、“戦前”の70年はどうだったでしょう？

先の大戦という場合、昭和16年(1941)に開戦した太平洋戦争だけではなく、その4年前に開戦した日中戦争(当時は戦争ではなく“事変”とされていた)も含まれます。そこで、昭和12年(1937)の70年前にさかのぼると、慶応3年(1867)となります。これは、江戸時代の最後の年にあたります。この年の10月に大政奉還があり、翌年に戊辰戦争がありました。

それから70年間は、おおむね10年に一度の割合で大きな戦争がありました(表に書いた以外にも、小規模な内乱や多くの対外派兵があります)。

その多くは、他国との戦争です。江戸時代まで、日本は、他国との戦争が非常に少ない国でした。正規軍同士の戦いとして記録が残るのは、1300年前の白村江の戦い、700年前の元寇、400年前の文禄・慶長の役の3回です。それに比べれば近代の70年は異常です。

敗戦後、連合国の占領下に置かれた日本は、サンフランシスコ条約でアメリカなど多くの国と講和し、国土の大部分が占領を脱しましたが、その後も他の国との国交回復や占領地の返還交渉を進め、1972年に沖縄返還と日中国交正常化に至りました。しかし、未だに平和条約を締結していない国や返還されていない領土もあります。

国民の軍隊

明治5年(1872)11月、政府は徴兵告諭^{ちようへいこくゆ}を發し、国民は兵役の義務を負うとしました。そして翌年1月には徴兵令を定め、満20歳の男子を徴集・選抜して3年間常備軍に服務させることになりました。ただし、初めのうちは、実際に兵役に就く人はごく一部でした。

明治時代後半から次々と起こる戦争には、徴兵された人々が出征しました。

日清戦争(1894-1895)には、南畑村と鶴瀬村を合わせて29人が従軍し、戦死者は1人でした(水谷村の従軍者数は不明ですが、戦病死者がいます)。

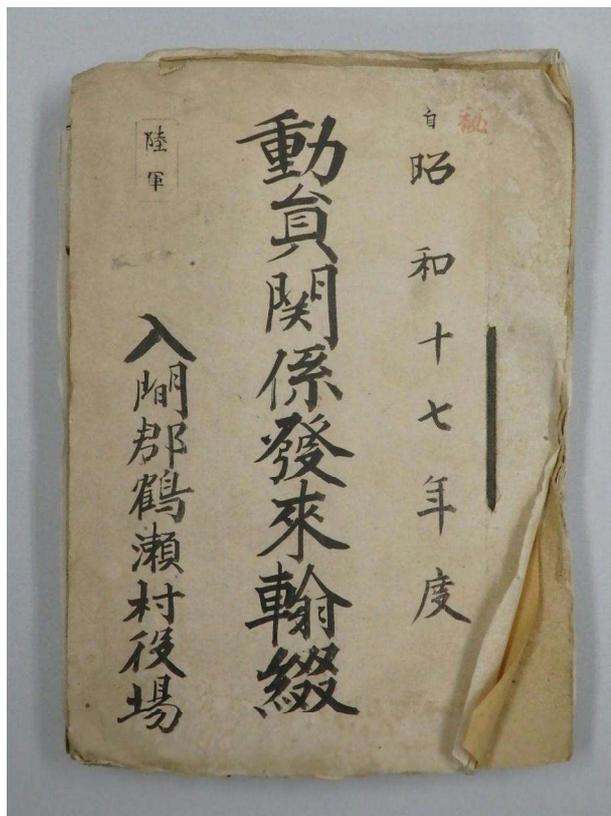
国力を尽くした日露戦争(1904-1905)では、南畑村・鶴瀬村・水谷村を合わせて210人が従軍し、17人が戦死しました。

第一次世界大戦(1914-1918)とそれに続くシベリア出兵(1918-1922)の出征者は多くありません。

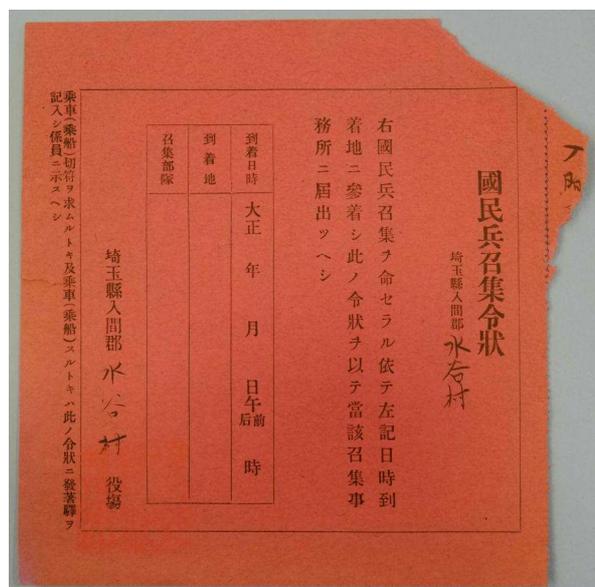
日中戦争(1937-)と、それが終わらないうちに開戦した太平洋戦争(1941-1945)では、過去の戦争とは比較にならないほど大勢が出征しました。戦局が悪化するるとともに、常備兵役に服している者だけでなく、補充兵役(現役兵の欠員補充や戦争に備える兵役)・国民兵役(常備兵役・補充兵役に入らない者)に服している者も召集され、戦地に向かったのです。家族は、出征者を万歳で送りつつ、無事の帰還を願ってお守りや千人針、寄せ書きの日章旗などを渡しました。

無事に除隊した人々はそれを記念して盃などを作り親戚・友人などに配りました。戦場で活躍して勲章を得る人もいました。一方では体の一部を失ったり心身を病んで帰る人もいました。

当市域からの出征者数及び戦没者数の正確な数字はわかっていません。終戦直後に書類が焼却されたからです。焼却をまぬがれた鶴瀬村役場の資料によると1942～1945年に召集された人数は195人(鶴瀬村の人口は1940年で3,079人)で、年を追うごとに人数が増えています。



昭和17年鶴瀬村動員関係綴 召集令状は村役場を通して本人に渡された。それに関する書類が綴られている。終戦直後、焼却するように通知されたが保管された。



召集令状(未使用) 「赤紙」とも呼ばれる。到着日時・到着地・召集部隊などが記入され、役場を通して本人に届けられた。本人は部隊まで持参し(所持者は自動車代が免除になる)提出した。通常は地元に残らないが、この資料は、失敗品のために役場の係の手元に残された。



寄せ書き日章旗 「武運長久」に
生還を願う気持ちが込められた。



出征たすき 召集を受けた兵士が出征の日に軍服の上に着用した。「祝入営〇〇君」「祈武運長久」などと記すこともあった。
軍服(上着) 陸軍の制服。色は国防色と呼ばれ、戦場で目立たないためといわれる。

出征のぼり 出征は名誉なこととされ、「祝出征」と記されたのぼりを立て、戦地に赴く兵士を見送った。



お守り袋 出征する兵士の武運長久を祈って渡したお守りを入れた、革製の袋。
千人針 多くの女性に縫い目を付けてもらった布。兵士が腹巻にすると弾丸よけになるといわれた。「しせん(死線)・くせん(苦戦)を越える」ことを願って、五銭硬貨や十銭硬貨が縫い付けられることもあった。



支那事變従軍記章 日中戦争(支那事変)に従軍した者に与えられた。表には菊の御紋、八咫鳥、軍旗・軍艦旗、裏には山、雲、波と「支那事変」の文字がある。



満期除隊記念盃 兵役を終えて、無事に故郷に戻ったことを記念して、盃や盆を親戚や知人に配った。写真右上のように高台を、銃が交差した形にしたものもある。

ある兵士の記録

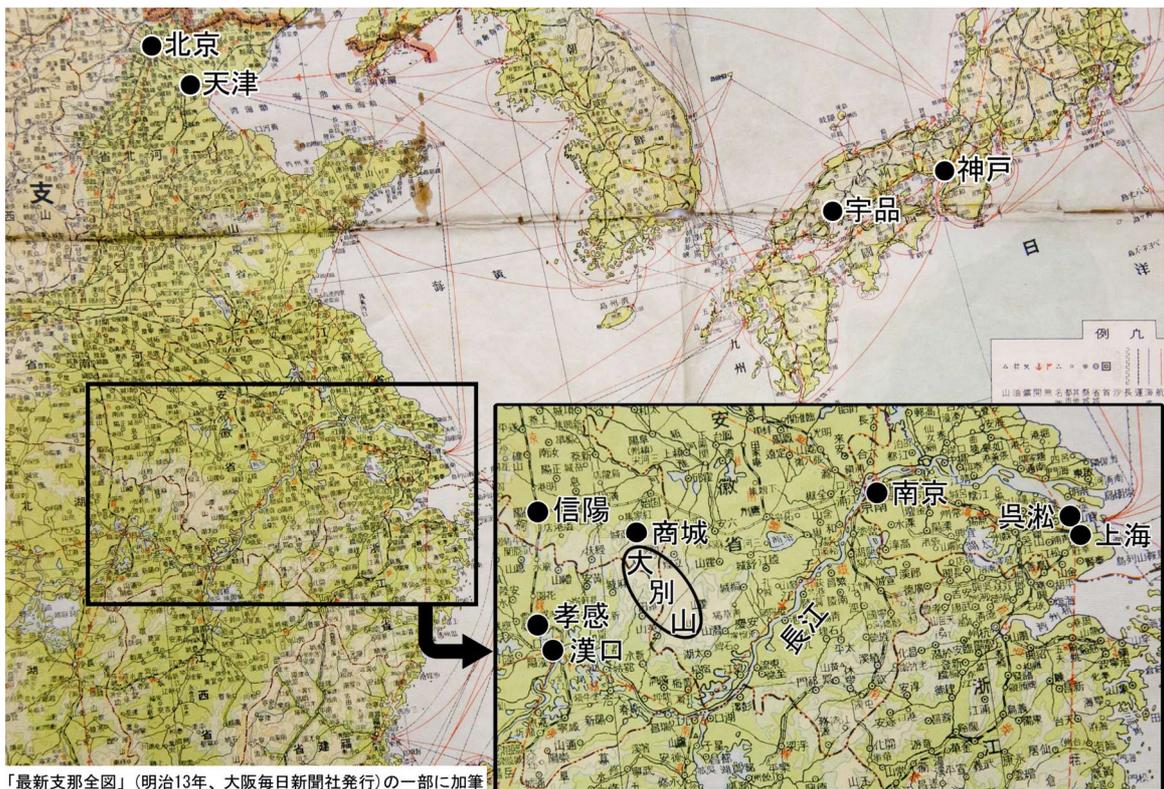


市内のA氏（明治34年生まれ、故人）の兵役時の写真と軍隊手帳です。A氏は20歳で徴兵されて中国に2年間派遣されました。除隊後、普通の生活に戻り家庭も築きました。37歳にもなって再召集され、戦争中の中国に送られました。くわしい内容は表「ある兵士の戦時録」にまとめました。表に出てくる地名は下の地図を参照してください。

再召集後、中国で



軍隊手帳 縦 87mm × 横 125mm。「履歴」や「出戦務」などを記録した。



「最新支那全図」（明治13年、大阪毎日新聞社発行）の一部に加筆

ある兵士の戦時録

・以下は、市内在住のA氏(明治34年-1901-生まれ、故人)の「軍隊手帳」に書かれた内容を表にしたもの。
 ・旧字は現行字体に、仮名表記はひらがなに改め、句読点や語句を補って表記した。
 ・赤字表記は戦地での行動。黄色の行は、展示担当者が追記した項目。

西暦	年号	年齢	月日	A氏の出来事	国内の出来事
1921	大正10	20	12.10	徴兵されて、電信連隊第一中隊に入隊	
				第一期卒業	
1922	大正11	21	9.11	支那駐屯軍通信員、臨時交替要員に命じられる	列強諸国は自国民保護のための駐兵を中国に認められていた。
			9.16	中野屯営出発	
			9.17	神戸出帆 ※神戸…兵庫県	
			9.23	天津上陸	
			12.1	一等卒に任命される	
1923	大正12	22	6.10	(天皇陛下が)軍隊慰問のため、侍従武官を差し遣わせられ、酒肴料金50銭下賜	9月1日、関東大震災が起こる。
			9.19	病により、支那駐屯軍病院入院(二等症) ※二等症…軍隊用語で一般の病を指す。	
			9.27	治癒、退院	
			10.8	上等兵に任命される	
				電信第一連隊へ帰還を命じられる	
			11.14	天津出帆	
			11.20	神戸上陸	
			11.21	電信第一連隊へ帰還し、第一中隊配属	
11.30	帰休除隊 ※帰休…現役兵の定員が余剰になった時、兵の一部を現役のまま在営期間を短縮して帰郷させた制度。				
1924	大正13	23	簡閲点呼済 ※簡閲点呼…旧陸海軍で、予備役・後備役の下士官・兵や補充兵を召集して行った点呼。	翌1925年に普通選挙法と治安維持法が成立。	
1926	大正15	25	簡閲点呼済		
1927	昭和2	26	結婚		
1928	昭和3	27	簡閲点呼済		
1929	昭和4	28	長男が誕生		
1930	昭和5	29	簡閲点呼済		
1931	昭和6	30	7.8-29	電信第一連隊において、勤務演習	9月18日、満州事変が勃発。
1932	昭和7	31	2.24	近衛師団動員下令	
			2.28	充員召集のため、電信第一連隊に応召	
			3.4	動員部隊編成過剰につき、定員外として、第九中隊に配属	3月1日、満州国建国が宣言される。
			3.16	召集解除	
				簡閲点呼済	
1938	昭和13	37	6.23	充員召集のため、電信第一連隊に応召	前年1937年(昭和12)7月、日華事変(日中戦争)開始。この年、国家総動員法が告示、実施される。
				野戦電信第三中隊に編入	
			6.30	宇品港出帆 ※宇品港…広島県	
			7.7	第一通信隊長の隷下に入る	
			7.8	南京港上陸	
			7.9	(同日より)南京付近の警備	
			8.14	(同日より)南京廬州付近の作戦準備	
			8.27	(同日より)商城光州に至る戦闘	
			9.25	(同日より)信陽大別山系戦闘及び追撃	
			10.25	マラリアのため、第十師団野戦病院に入院	
1939	昭和14	38	1.24	漢口第十五兵站病院へ転送	9月1日、ヨーロッパで第二次世界大戦が始まる。
			1.25	第三通信隊長の隷下に入る	
			2.1	工兵伍長に任命される	
			2.2	漢口第七兵站病院へ転送	
			5.10	退院	
			5.12	帰隊、同日より襄東会戦に参加	
			6.1	(同日より)襄東会戦後、警備及び贛湘会戦に参加	
			10.1	工兵軍曹に任命される	
11.1	(同日より)孝感付近の警備及び討伐				
1940	昭和15	39	3.4	陸支機密第232号により、孝感出発	9月27日、日独伊三国同盟締結
			3.8	漢口出発	
			3.19	呉淞沖通過	
			3.25	宇品港上陸	
			3.26	電信第一連隊到着	
			4.5	召集解除	
1944	昭和19	43	11.24-25	警備召集のため、東部第13328部隊に応召	
			11.27-29	警備召集のため、東部第13328部隊に応召	
			11.30-12.3	警備召集のため、東部第13328部隊に応召	
			12.7-11	警備召集のため、東部第13328部隊に応召	
1945	昭和20	44	6.12-22	警備召集のため、東部第13328部隊に応召	3月1日、東京大空襲
〃	〃	〃	〃	長女、誕生	8月14日ポツダム宣言受諾

帰れなかった人々

日露戦争で多くの戦没者がでると、国内各地で、その霊を慰め、従軍者を顕彰する忠魂碑（彰忠碑などとも呼ぶ）が建てられるようになりました。市域の3村でも、それぞれ時機は異なりますが、戦前に建立されました。

旧村	碑名	建立年	建立者	現所在地
(勝瀬)	「千載不磨」 「偉烈」	明治40 (1907)	勝瀬中 (勝瀬地区一同)	榛名神社 (2基一対)
水谷村	日露戦役 忠魂碑	明治41 (1908)	水谷村軍友会	中水子 氷川神社
南畑村	彰忠碑	大正7 (1918)	村有志者・ 在郷軍人分会	J A 南畑支店
鶴瀬村	彰忠碑	昭和5 (1930)	在郷軍人会 鶴瀬村分会	上鶴馬 氷川神社

富士見市内の忠魂碑・彰忠碑（戦前建立のもの）

榛名神社例をのぞき、在郷軍人会が建立主体になり、村役場や小学校に建てられました。半ば公的なものだったのです。戦後、占領軍は、これらの碑が軍国主義を鼓舞したとしました。地域によっては破壊されましたが、土中に埋め隠す村が多かったといえます。市域3村も同様でした。占領が終ってしばらく経つと再建されましたが、新憲法で定められた政教分離の観点から、公有地を避けて神社に移されたものが大半です。

戦争に動員されたのは人間だけではなく、家畜も必要に応じて提供を求められました。昔は馬の菩提を弔うため、馬頭観音を建てる習わしがありました。その一種として「軍馬観音」が建てられることもありました。



軍馬観音 明治27年(1894)と同37年(1904)の2つの年が刻まれている。現在は難波田城公園にある。



榛名神社の彰忠碑 日露戦争の生還者を顕彰する「千載不磨」(左)と戦死者を顕彰する「偉烈」が対になっている。



水谷村日露戦役忠魂碑 乃木希典揮毫。



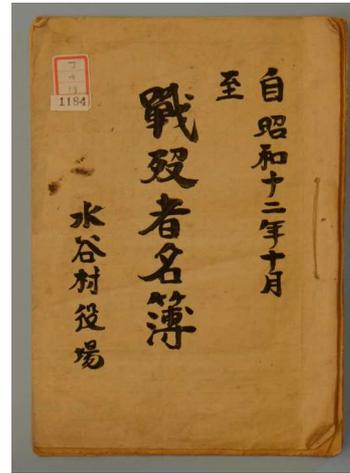
南畑村彰忠碑 陸軍大将福島安正揮毫。
J A南畑支店は旧南畑村役場跡にある。



鶴瀬村彰忠碑除幕式 陸軍大臣林銑十郎揮毫。

埼玉県遺族会がまとめた資料によると、日中・太平洋戦争における、富士見市域から出征した戦没者は 290 人とされています。この地域の当時の人口のおよそ 3 %にあたり、兵役対象である壮年男性の割を越える数字です。

戦没地は、北アジアから南太平洋まで、日本軍が展開した各地に広がります。地域ごとの割合は埼玉県全体あるいは日本全体の戦没者の分布と大きな違いがありません。これは、同じ村の出身者を同じ部隊に集めると、その部隊が全滅した場合に村の存続が危うくなることから、散らばらせるように配置したためと考えられます。生還率は出征先によって大きな違いがありました。



戦没者名簿 日中戦争・太平洋戦争に水谷村から出征し、戦没した 74 名の氏名、住所、戦没した年月日・場所、遺族が記されている。

富士見市出身者の地域別戦没者数

総数290人(内訳：陸軍233人・海軍57人)



出典：埼玉県遺族連合会史(昭和61年)

戦争の下の暮らし

昭和13年(1938)に、国家総動員法が制定され、働く人や物資の統制が図られ、すべてが軍需(軍事目的の生産・流通)優先となりました。食料や日用品の不足はしだいに深刻になってゆきました。同15年(1940)に米や麦の統制が始められ、砂糖・マッチ・木炭・衣料品など日用品も切符制で配給されるようになりました。同17年(1942)には食糧管理法を施行し、主な食糧を国家管理下におきました。農家は自家用の米も確保できない程の^{きょうしゅつ}供出が割り当てられました。また、兵器の材料となる金属の供出や、戦費の寄付、戦時国債の購入など「任意」の協力が求められました。

出征者の家族や遺族を援護するため、青年団や女性団体が、人手不足の農家を手伝いました。戦争が長期化すると、昭和14年(1939)に徴用令が制定され、軍需関連の産業に他部門の労働者が動員されました。主に男性が担っていた職場にも女性が進出しました。学生や学童も、授業そっちのけで、軍事訓練や農作業へ駆り出されました。

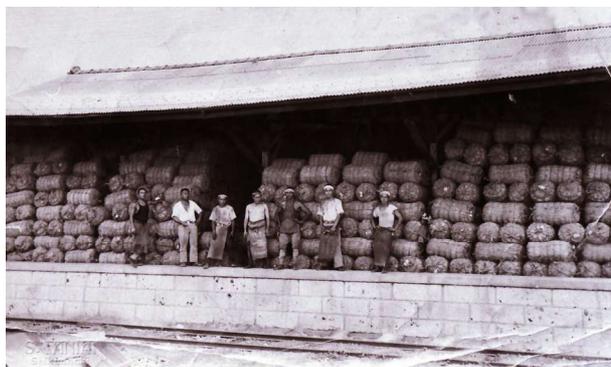
空襲に備えた防空体制も、民間を含めたものへと強化され、空襲の際の警報伝達、防火などを行う防護団が組織されました。各家庭はその下に組み込まれ、厳しく指導され、灯火管制もしられました。戦争末期には「国民義勇隊」が設けられ、全国民が戦闘員と位置づけられました。



衣料切符 配給制のもとでは、衣料の購入にはこの切符が必要だった。一人が1年間に買える衣料は、配られた点数の範囲内だった。



青年団の勤労奉仕 昭和12年(1937)。出征者がある家の農作業を手伝うなど、多くの奉仕(ボランティア)活動が行われた。



麦の供出 昭和14年(1939)。鶴瀬駅貨物ホームに積み上げられた供出用の麦。



大応寺の代用鐘 村民に時を知らせていた梵鐘が戦中に供出された後、鐘楼のバランスを保つため、コンクリート製の鳴らない鐘が昭和45年(1970)まで吊されていた。

空襲があった

昭和 17 年 (1942)、日本は初めてアメリカ軍による空襲を受けました。太平洋戦争での日本側の死者は 250 万人といわれていますが、このうち約 30 万人が空襲による死者です。東京への空襲だけでも 106 回もありました。空襲は 19 年 (1944) に激しくなりました。

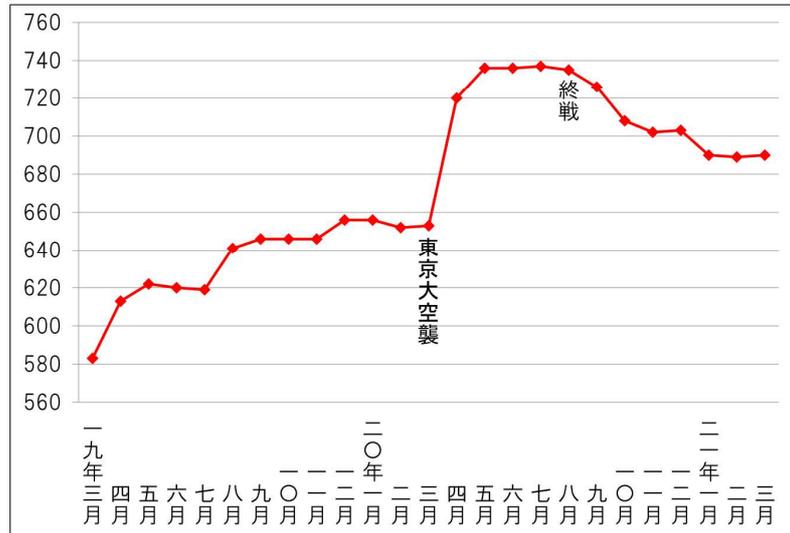
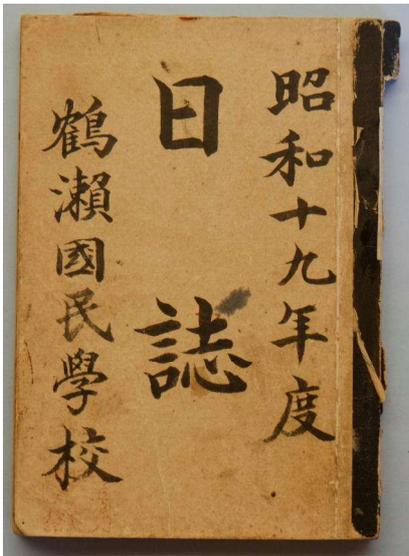
富士見市域にも小型戦闘機が現れ、機銃掃射による攻撃が行われるようになりました。

空襲が激しくなると、親類や知人を頼って富士見市域に疎開してくる人が増えました(縁故疎開)。

鶴瀬国民学校の日誌によると、昭和 19 年 (1944)

年 4 月以降、児童数が増加し始めます。東京大空襲の翌月に一気に 67 名増加、20 年 7 月に最高の 737 人となりました。増加前と比べ 154 人(26%)増にあたります。終戦後には減少に転じますが、21 年(1947)3 月でも 690 人で 7%減にとどまります。戦火で家を失ったため、市域に住み続けた人がいたことが、うかがえます。

夜間の空襲に対処するため、東京の周囲に高射砲と照空灯が配置されました。鶴瀬、南畑、水谷の各村にも照空灯が配置され、鶴瀬村には照空大隊の本部(陣地。現・鶴瀬東)も置かれました。



鶴瀬国民学校の学校日誌と児童数の変化



防空用防毒面 昭和 15 年(1940)に製造された防毒マスク。ゴム製のマスクと毒ガスを吸収する吸収缶に分かれる。空襲での毒ガスに備えた。



防空ずきん 中に綿が入っており、空襲の際に飛来物や落下物、火の粉などから頭部を守るためかぶった。



鉄かぶと 兵士が戦場でかぶったものではなく、一般人が空襲の際に使用したもの。

事 記	童 兒				四月二日 曜日 天 晴 温 度 直 日 宿
	席 女	欠 男	席 女	出 男	
警成警報 八時十五分 丁 鶴瀬 下 空襲 (初 四 甲) 二時 一 丁 一時 十五分 江 野 川 堤 内 四 富 田 堤 内 四 横 山 堤 内 五 曹 平 堤 内 五					年 學 一 初
					年 學 二 等
					年 學 三 科
					年 學 四 科
					年 學 五 科
					年 學 六 科
					年 學 計
					年 學 一 高 等 科
					年 學 二 計
					科 修 特 計 合

鶴瀬国民学校の学校日誌 4月2日午前2時30分から午前4時までの空襲で、関沢地区に爆弾が10数個落下し、児童も1人死亡したことが記録されている。

そして、昭和20年(1945)4月2日未明、B29爆撃機がこの地域にも時限爆弾を投下し、関沢で6人の方が命を落としました。

この空襲については、鶴瀬村にあった照空部隊の陣地を狙ったといわれることもありますが、実際には中島飛行機武蔵製作所(現・武蔵野市)を爆撃した編隊の一部が、埼玉県南部(入間・北足立・南埼玉の3郡および川口市)に爆弾を落としたものです。アメリカ軍の爆撃報告には特に記載はないので投下の理由はわかりません。富士見市域では針ヶ谷、水子、上南畑、関沢に十数発を投下したことが確認されており、落下地点を結び、少なくとも2機により投下されることがわかります。

当時の埼玉新聞は、この来襲を伝える記事で、軍の発表に基づき「撃墜15機、損害を与えたもの約30機という来襲機のほとんど大多数に損害を与えた」と書いていますが、アメリカ軍の報告には「出撃機数は121機のうち損失機数は6機、敵の航空抵抗はわずかで攻撃回数33」とあります。



昭和20年(1945)4月2日に投下された爆弾破片 市内針ヶ谷の南通遺跡から出土した。爆弾が破裂すると、爆風のみでなく、このようなギザギザに割れた鉄片(大きき数十センチ)が猛スピードで飛んでくる。落下してすぐではなく、設定された時間が経つと爆発したので、爆撃機が去っても安心できなかった。



昭和20年4月2日 現・富士見市域の爆撃コース

●は爆弾が投下されたおおよその場所。佃照空陣地は現・志木市 現・船渡橋付近(東大久保)に南畑照空陣地があった

戦争体験を伝える

1970年代初頭から、全国的に戦争体験を書き残す動きが起こり、富士見市でも1971年に戦争体験を記録した文集が発行されます。その後も、市内では戦争体験がまとめられていきます。次ページは主なものの一覧です。文字による記録に加え、近年では映像による記録も行われています。市内で記録された戦争体験には、この地域でのものと戦地での体験に加え、全国各地や「満州」など外地での体験があります。これは、戦後、富士見市域に多くの人口流入があったあらわれです。

1977年に旧水谷村、翌78年に旧鶴瀬村で、日中・太平洋戦争の戦没者慰霊塔(碑)が建てられました(針ヶ谷地区では、1962年に針ヶ谷氷川神社へ平和記念碑が建てられている)。

1984年6月、富士見市議会において「富士見市非核・平和都市宣言に関する決議」が全会一致で採択され、市は1987年に「非核・平和都市宣言」を行いました。平和の尊さを未来へ語り継ぐために、この年から毎年ピースフェスティバルが開催されています。さらに、同年に「富士見平和かるた」も製作されました。かるたの売上金と寄付金により1995年、市役所の前に「平和の鐘」(裏表紙)が建立されました。



旧水谷地区戦没者慰霊塔(大應寺)

富士見市非核平和都市宣言

私たちは、何よりも家庭の平和を願い、世界の平和を願っています。しかし地球をおおっている核兵器は、世界の平和と安全を脅かしています。私たちは、広島・長崎の過ちを再び繰り返さずにはなりません。私たちは、平和憲法を大切にし世界中の人びとと手をつなぎ核をもつすべての国に「今すぐ核兵器を捨てよ」と訴えます。この市民の声と願いを

非核平和都市 富士見市の宣言とする。

一九八七年七月一九日 富士見市



市内でまとめられた戦争体験記録集



旧鶴瀬地区戦没者慰霊碑(氷川神社)

戦争体験記録文集

编者または発行者	刊年	タイトル
富士見町教育委員会	1971	おかあさんの戦争体験
南畑公民館	1975	おとしよりのせんそうたいけん
富士見市	1975	市民の戦争体験
富士見市	1981	市民の戦争体験Ⅱ
水谷東高齢者学院	1986	あすなる第三集 「私の戦争体験」
富士見市ほか	1986	平和を願い戦争体験を語りつぐ文集
鶴瀬公民館	1986	第一回つるせ平和展の記録
鶴瀬学級	1989	わたしの戦争体験
水谷公民館	1994	戦争体験を綴る
南畑公民館	1995	戦争体験 その時わたしは
富士見市教育委員会	1996	平和を願う
富士見市教育委員会	2003	戦争体験文集

広報誌に掲載された戦争体験（連載記事のみ紹介）

水谷公民館だより「国際平和年シリーズ 私の40年」（1986.2～1987.4。73号～99号）

同 「私の45年前」（1990.8～1991.3。127号～134号）

水谷東公民館だより「終戦五〇周年記念特集」（1995.1～1995.8。175号～182号）

ふじみ社会教育だより「シリーズ戦争を知らないあなたへ」（1995.6～1996.3。295号～304号）

広報ふじみ「富士見市非核平和都市宣言から10年 語り継ぐ私の戦争体験」（1997.4～1998.3。592号～613号）

南畑公民館だより「平和の大切さ ～戦争体験を聞く～」（2015から毎年9月号。463, 473, 483, 493・・・）

映像記録

- ・埼玉県立ピースミュージアム記録映像には市内在住者3名の戦争体験があり同館で閲覧できる。
- ・ピースフェスティバル実行委員会が毎年DVD「戦争体験を語る」（編集・ふじみビデオクラブ）を制作している。2017年までの13巻に31名の戦争体験が記録されており、市立中央図書館で閲覧できる。

市民による著作で戦争体験が書かれているもの

著者	刊年	タイトル	著者	刊年	タイトル
関口たつき	1987	太陽は昇った	後藤ただし	1993	自分史 おじいちゃんの生還
同	1995	せんそうってなーに	星野定太郎	2011	至誠に生きて（回想録）
同	2000	ふるさとは信州	島田一雄	2015	自分史 道
同	2002	おばあちゃんが語る戦争の話	同	2015	わたしの戦争体験

上記は当館が把握しているものです。連載記事以外でも広報誌や地域誌に掲載された戦争体験は多数あります。詳細な一覧は市ホームページへの掲載を準備しています。



平和の鐘と青桐

2018年撮影。市役所敷地にある
青桐は、広島で原爆から生き残った青桐の子孫